

## 9. 農学部、農学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 26 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 26 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 特許、著作、マテリアルの知的財産収入額も研究科全体で、平成29年度7,964千円から、平成30年度24,478千円と大幅に増加している。
- 文部科学省から、次世代の農と食とエネルギーを創るグリーンエネルギーファーム教育拠点として平成28年4月に附属農場が認定されており、着実に活用業績を上げている。本拠点は、トリジェネレーションシステム、シリコン型太陽光発電などの施設を活用し、グリーンエネルギーファームの社会実装に向けて様々な研究科との学際研究の実施や平成30年度設立された産官学連携研究を推進するためのコンソーシアム「グリーンエネルギーファーム産学共創パートナーシップ」の中核施設として活動している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、12件、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「病原微生物分子パターン認識を軸とする植物と病原微生物間の攻防に関する分子基盤解明」及び「果樹類の雌雄性表現に関する研究」は、学術的に卓越している研究業績である。